イチゴ多収穫のための
ひな壇２段高設栽培システム

野菜栽培部

1　背景、目的

県内で普及している高設栽培は土耕栽培に比べて作業性は優れるものの、収量性の向上が課題になっています。そこで、「あまおう」の株の立性、果実の着色が良いなどの特徴を積極的に活かし、作業性が良く、多収穫生産できる高設栽培システムを開発し、密植、多段に向く栽培技術を確立しました。

2　成果の内容、特徴

１）作業性に優れ、各架台における積算日射量が多く多収となる架台の構造は、ひな壇２段で３栽培槽（幅30cm）を持ち、１槽の上段を高さ110cm、２槽の下段を高さ80cm、通路側への距離38cmに配置します（図１、一部データ略）。

２）栽培槽にはプラスチック製樹脂に比べて安価で収量も同等であるシート（ポリエチレン製割布：幅50cm、底面に給水シート：幅25cm）を用い、架台サイドには日射量を増加させるために白黒マルチを被覆します（データ略）。

３）株間は15cmとし、上段は２条植え、下段は１条植えとすると定植株数が慣行１段の1.7倍（12,833株/10a）となり、商品果数は慣行の1.5倍で、商品果収量は6.6ｔ/10aが期待できます（表１）。

４）新システムで生産されたイチゴ果実の糖度、酸度は慣行高設栽培と変わりません（データ略）。

５）ひな壇２段栽培のシステムにおける架台、培土およびその他の資材費、工事費の合計は584万円で慣行の約1.4倍ですが、２倍の所得が見込まれます（表１、一部データ略）。

3　主要なデータなど

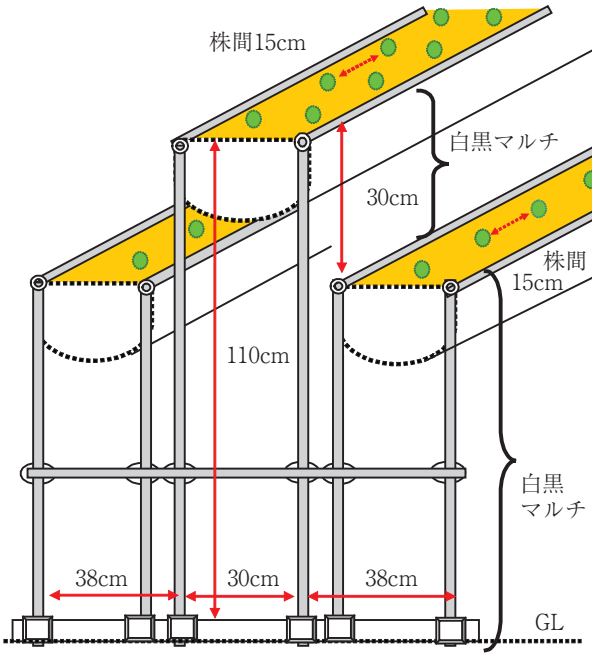

図１　開発したひな壇２段高設栽培システム

注）１．高設栽培システムは南北方向に設置。
　　２．培土はピートモス、ボラ等の混合培土、培土量は上段1.4L/株、下段2.8L/株。

表１　ひな壇２段高設栽培の商品果収量と初期投資額

高設栽培様式	定植株数（株/10a）	商品果収量（kg/10a）	初期投資額（千円/10a）				
			架台	培土	かん水資材等	工事費	合計
１段（慣行）	7,425	4,486（100）	2,359	401	423	1,080	4,263（100）
ひな壇２段	12,833	6,637（148）	3,047	854	509	1,430	5,840（137）

注）１．慣行はダブルベリコンによる１段高設栽培、収量は２地域の平均値。
　　２．ひな壇２段高設栽培は50穴セルトレイの25穴に育苗したセル苗を９月25日定植。
　　３．養水分管理は窒素成分で75ppmの総合液肥をかん水同時施肥。
　　４．光合成促進装置を11月下旬～３月上旬の６時～10時に1,000ppmで使用。
　　５．ひな壇２段の工事費はＡ社の多段高設システムを参考にした。